

いなさとタイム学習指導案

日時	平成13年11月2日第1校時
児童	第2学年 男子1名 女子2名
	第3学年 女子1名
	第4学年 男子1名
	第5学年 女子2名
	第6学年 女子1名
	男子2名 女子6名
	合計 8名
指導者	C T 教諭 柳瀬 智雄
	S T 教頭 中山 重夫
	教諭 小島 充雄
	教諭 中村 良行

1. 活動名

「BBS を使ってクイズをしよう」

2. 活動について

(1) 教材観

本校は文部科学省研究開発学校指定により、学校教育法施行規則第26条の2の規定に基づき、教育課程の基準改善のために文部科学大臣の委嘱を受けて実施することになった教育課程の編成においては、弾力的な運用が可能になった。そこで、低学年にも総合的な学習の時間を135時間設定することとした。そのうち、90時間は生活科としての活動を行うことになる。さらに、総合的な学習の時間のうち30時間程度を全校児童による活動とした(30時間中20時間は必要最低限のコンピュタリテラシー育成に配当する)。低学年における総合的な学習の時間として実施される内容は、全校での活動が中心となる。この活動はその時間で行われる。

本校の総合的な学習の時間「いなさとタイム」では、地域素材の有効活用と情報教育の融合の2本柱を中心に構成している。地域素材に関しては、稲里の自然環境、人材、産業を扱い、地域と密接した学習を進めてきている。その反面として抱えるべき地性を補うために情報教育を進めてきた。児童数が少ない故に発生する、教室内での意見交換や練り合い、深まりの不足を、情報機器を活用し校外の人間との関わりを持ちながら学習を進めることにより補おうとするものである。

本校の進める情報教育の目的は、情報機器の扱い方を身につけることではなく、直接会うことのできる機会が少ない相手と交流を持ち、学習に役立てるためである。しかし、その為には最低限度の機器の扱い方のスキルが必要となる。そこで、低学年から系統的に機器の扱いに関するリテラシーを身につけ、中学年の段階でMail(E-mail)やBBS(電子掲示板)の送受信、Webページ(俗称でホームページと呼ばれるもの)の作成などができ

るように育てていくこととした。それらの時間もただ機器の扱いを教えるのではなく、そうした機器を使わざるを得ない活動を組むことによって、そこから自然に身につけていく事ができるように配慮していく。

この活動を全校で行う理由は以下の通りである。まず、上の学年の児童が持つ技術を、下の学年の児童へと伝えていくことである。上の学年の児童が、自分の持たないスキルを持ち、機器を扱うことにかっこよさを感じる下の学年の児童が、そのスキルを伝えてもらうことは意欲の向上にもつながる。次に通常は少人数学級での学習が多いことは避けられない現実であり、異学年であれ人数が増える学習は楽しさも増し、やはり意欲が向上することになる。

こうした活動を年間で20時間程度計画しており、機器の基本的操作、OSの基本的操作、ペイントソフトによる描画やアニメーションの制作（図工科との関連）、ブラウザの操作、BBS（本時の活動）やMailソフトの扱い、テレビ会議による校外との交流などを学習していく（今年度は1年生が欠学のため、機器及びOSの操作に関しては全学年が身につけているため実施していない）。

本活動ではアップローダー（画像掲載が可能なBBS）を使用する。児童が異年齢集団のグループに分かれ、各グループごとに学校周辺の様々な素材から対象物を選択し、デジカメで撮影する。その画像を含めてクイズを作り、BBSにアップロードするのである。掲載されたクイズに対し、他のグループは、必要に応じて正答やヒントを求めて素材を探したり、調べたりしながら、解答をBBSに書き込むのである。通常の学習形態であれば、解答はお互いが向き合い、口頭などで発表し、またその正否も口頭で済ませればよい。敢えてこのような形式にするのは、これは低学年にとっての、今後の校外の人との情報機器を通じた交流のためのスキルを身につけるためでもあるからである。

なお、このアップローダーは校内の閉ざされたネットワーク内ではなく、インターネット上（http://www.s-school.com/inasato/bbs2/imgboard_r6b3.cgi）に設置しており、校外からの書き込みも可能である。

（2）児童観

本校の全児童は2年生から6年生までで計8名である。そのうち6名が女子であり、高学年は全員が女子である。2～4年生までは1年生の時から、5、6年生も中学年になった頃から自由に校内のコンピュータを操作して良い環境となっていたため、それぞれにコンピュータを使った活動には慣れがある。

6年生は様々なソフトを全般的に使うことができるが、5年生以下に関してはそれぞれがよく使うソフト以外には、あまり習熟しているとは言い難い。ブラウザの扱いに突出的に慣れている者、ペイントソフトによる活動になると張り切る者、全般的に苦手とする者と様々である。

異年齢集団としての実態は、上の学年の子が、下の学年の子に教える、指示する、やりたがる活動をさせる、難しい作業は手助けをするなどといった姿が随所で見られ、概ね良好であるが、一緒に活動したり遊んだりする時間が多く、さらに兄弟関係も含まれているため、公私の混同や馴れ合いといった面も多々見られる。

(3) 指導観

全員が情報機器に対する抵抗感はなく、日常的に使用している。また、野外での活動にも活発に取り組む。その為、クイズの素材探しや、情報機器を使用したクイズも特に問題なく受け入れると考えている。BBS の使用については6年生は慣れている。3, 4, 5年生は経験があるが、まだ慣れるという段階には達していない。2年生は経験がない。アップローダーに関しては中高学年ともまだ不慣れである。

これまでの段階で、練習用に作成した問題において、一つのことを普段とは違った視点から見ようとすることや、どうしてもわからない場合の対策の取り方、わからない悔しさ、苦しんだ上での解答の発見への喜びなどに気づいてきた。本時においてもそうした気づきを少しでも多く味わわせたい。

教師側は各グループにSTが1人ずつ付き、積極的に関わって支援していく。また、必要に応じてSTとCTとで協議を行い、CTが確実に全体の動向をつかんでおくようにする。

口頭、筆記ともに相手に伝わりやすい文章を作成することを苦手とする子が多い。本活動においては、そうした点の克服を意識して、相手に問題の意図が伝わりやすいクイズの文章を作成させるように指導していく。また、クイズであるという点から、解答が困難すぎたり、容易すぎたりしないように、画像の写し方やヒントの出し方も工夫するように指導していく。

3 . 活動の目標

協力しあい、楽しみながらクイズ大会をしようとする。(やる気/関心・意欲・態度)
対象物をよく観察し、出題方法を工夫してクイズを作ったり答えたりすることができる。
(伝える力/観察・表現)

BBS を使用してクイズをすることから、交流の手段として有効であることに気づく。
(心/情報の科学的理解)

インターネット上で、相手と適切なやりとりをすることができる。
(生きる力/情報社会に参画する態度)

4 . 活動の全体計画 (全5時間)

時間	活 動 内 容	
1	画像掲載型 BBS の 使い方を知ろう	文章の書き込みや画像の掲載方法を知り、練習する。
2・3	クイズを作って掲載しよう	デジカメ画像を使ったクイズを作り BBS に書き込んだり、答えたりする。
4 (本時)		前時のクイズを見直し、相手に伝わりやすい問題を工夫する。
5		校外の人間にも出題することを意識して問題を作り掲載する。

5 . 本時案

(1) 本時の目標

画像や文章を工夫してクイズを作ることができる。

BBS を使ったクイズが、交流の手段として有効なことに気づく。

(2) 本時の展開

児 童 の 活 動	教 師 の 関 わ り
<p style="text-align: center;">前時のクイズを見直そう</p> <p>出題と解答を見直し， 良い点，うまくできなかった点を考える</p>	<p>前時の BBS のハードコピーを参照させる</p>
<p>本時の課題</p> <p style="text-align: center;">反省を生かし，もう一度クイズ作りをしてみよう</p>	<p>本時の課題を伝える</p>
<p style="text-align: center;">素材を探してデジカメで撮影，クイズを考える</p> <p>撮影の仕方（アップやアングルなど）や 問題文の作り方を工夫する</p>	<p>各グループごとに教師 1 人がつき，活動の様子を見守る。</p>
<p style="text-align: center;">画像を取り込み，クイズを BBS に書き込む</p>	<p>機器操作等でつまづいている時は積極的に支援する</p>
<p style="text-align: center;">他のグループのクイズに答えよう</p> <p>答えを予想し，証拠を見つけて解答する</p>	<p>答えがわかってても，安易に書き込ませず，画像の素材を確認に行かせる</p>
<p style="text-align: center;">今日の活動を振り返ろう</p> <p>自分やグループの仲間の良かった点， 他のグループのクイズの良かった点を見 つけ発表し合う</p> <p>本時までの BBS の書き込みを ハードコピーし各自で保存する</p>	<p>自分や友達の肯定的な評価をさせる</p> <p>他のグループの工夫に気づかせる</p> <p>残り時間が少ない場合はハードコピーは教師が行い，児童の人数分を用意して配布する</p>

(3) 本時の評価

画像や文章を工夫してクイズを作ることができたか。

BBS を使ったクイズが，交流の手段として有効なことに気づいたか。

自己評価・相互評価